

## 出会いと別れ！ 人間の幸福は人との出会い

4月は出会いと別れの季節といえます。本園だけでなく、多くの認定こども園や幼稚園、保育園においても、年長児が巣立ち、また新しい仲間を迎えました。

小学校から大学までの教育現場はもちろんですが、年度が3月で終わり4月から始まるという仕組みがある以上、日本のいろいろな場面でそれぞれの出会いと別れがあります。いずれにせよ、4月は人と出会うこと、別れることを意識させられる時期です。

出会いと別れというと少し感傷的な気持ちになりますが、言い換えれば「環境が変わる」ということです。本園の様な保育の現場では園にいるスタッフ（時に子ども自身も含む）のことを「人的環境」と呼びます。人間は、その言葉の通り人と人の間に生きる存在ですので、本人の心持ちに関係なく、ただいっただけで周囲にいる人間に影響を与えます。また、同時に人はこうした環境の中で概ね、人は「良い人」であろうとします。

人が過ごす環境において、人的環境＝人間関係がとても重要であることは、皆さんも感覚的に理解していることと思います。実は、近年それがあつ程度科学的に立証されました。

アメリカのハーバード大学が「幸せな人世に必要なものはなにか」を知るため、743人を80年間にわたつて調査した結果が公表されました。結論は、「人間の幸福は、人間関係が決める」というものでした。お金でも地位でも名誉でもなく、人間関係こそが人の幸福のカギなのだという結論です。しかも、多くの「良い人」に恵まれることではなく、1人でも自分を理解してくれるひとがいたらそれで幸福度が大きく上がるという結果が示されたのです。

「1年生になったら友達百人できるかな？」などと歌にもありますが、ハーバード大学の実験では「1人でもいいから本当にわかり合える友達ができるといい。」が正しいという事です。ちょっと気が楽になります。

さて、本園に入園されたお子様も含め、子どもにとって認定こども園や幼稚園、保育園に入園することは、とてつもない環境の変化です。家庭で家族との愛着関係の中を生きていたところを突然全く異なる集団生活の社会へと放り出されるのですから、そのショックは計り知れません。しかしながら、そこで「良い人」に出会うことができれば、ギャップが大きい分より良い影響を与えてくれるでしょう。園は、子どもが人生で初めて家族以外の誰かを信頼する場所です。教師や保育士はその責任と気概をもつて子どもたちと過ごす「良い人」との出会いにならねばと本園のスタッフとともに決意をしています。

理事長